渋温泉　大湯

Shibu Onsen Ooyu

（長野県山ノ内町）

外観

渋温泉は志賀高原の麓、横湯川に面した小さな温泉街だ。温泉街を一通りぶらつくのに 30 分もかからない規模である。狭い路地、古い木造の建物、温泉まんじゅうの土産物屋、射的、卓球場、スナック、神社、寺など、日本の温泉街にあるすべてのものがこの狭い空間に凝縮されている。

温泉街には、今回紹介する大湯を含めて 9 つの外湯があり、渋温泉内の旅館の宿泊客はこれらを無料で利用可能だ。日帰り客は、渋温泉有料大駐車場で入浴券を購入すれば、大湯にだけは入浴可能だ。入浴料は 500 円（小人は 300 円）。駐車場代が 500 円なので、合計で 1,000 円だ。

9 つの外湯は、それぞれ個性があり、泉質も異なる。中でも大湯は唯一鉄分の多い茶色い湯だ。しかも、唯一、温泉の蒸気を利用した天然のスチームサウナもある。そして、大湯はあの高僧・行基が発見したと言われる由緒ある温泉である。

外湯の入浴の仕方は変わっている。駐車場で購入した入浴券を近くの店で提示し、半券を切ってもらい、出入口の鍵を開けてもらうというシステムだ。その出入口は、オートロック式になっており、中からは自由に開けられるが、外からは鍵がなければ開けられないようになっている。

中に入ると脱衣室があり、その左奥が浴室、右奥がサウナだ。脱衣室には棚があるが、籠もロッカーもない。貴重品がある場合は女湯の出入口側付近にあるコインロッカーを利用しよう。

大湯と言うからには、相当大きいのかと思いきや、全くそうではない。他の外湯に比べ

れば大きいのかもしれないが、浴槽はせいぜい 6㎡程度しかない。建物自体は鉄筋コンクリートであるが、浴槽と洗い場は木でできている。湯は奥から注がれているので、手前の方がよりぬるい。浴槽はギロチン式の仕切りで 2 つに分けられているため、熱い湯が好みならこのギロチンの奥側をお勧めする。

朝 10：00 に大湯に入ったが、すでに地元のご老人が入浴している。毎日温泉に入れるとは実にうらやましい。彼の情報によれば、日帰り入浴客でも、大湯以外の外湯に入る方法があるという。それぞれの外湯の近くにある店へ行って 500 円を支払えば良いらしい。今年からこの新しいシステムが導入されたとのことであるが、旅館組合のホームページにはそのようなことは一言も書いていなかった。

それにしても、9 つもの外湯を全部回るというのは、かなり苦行に近いであろう。温泉好きの私でも、せいぜい 2 つくらいが限界だ。9 つも 1 日で回ろうと思えば、それぞれがカラスの行水で終わってしまう。つまり、この苦行を最後までやり遂げれば、それだけのご利益があるということであろう。そして、苦行の最後には、温泉街にある渋高薬師へ参拝するのが習わしであるという。したがって、渋温泉の外湯巡りをしたいのなら、最低でも 2 泊くらいはゆっくりと旅館に宿泊して、入浴に専念した方が良いであろう。

ちなみに、大湯はナトリウム・カルシウム－硫酸塩・塩化物温泉（低張性弱酸性高温泉）で、特に神経痛、リウマチ、運動器障害、疲労回復等に効くという。

渋温泉は、温泉テーマパークのような渋い街であった。

- **名称**：渋温泉　大湯
- **所在地**：長野県山ノ内町渋温泉
- **電話**：0269-33-2921（渋温泉旅館組合）
- **営業時間**：10：00～16：00
- **定休日**：無休
- **入浴料**：大人 500 円、小人 300 円
- **サウナ**：あり
- **テレビ**：なし
- **取材日**：2012 年 7 月 12 日（木）
- **取材**：銭湯愛好会・東京支部